

日中関係の前向きな打開を

志位^{委員} 両国政府に提言

共産党の志位和夫委員長は3月30日、日中両国政府に宛てた提言「日中両国関係の前向きな打開のために」を発表、同日、岸田文雄首相に申し入れました。「提言」は、両国間には様々な紛争・緊張・対立がある中でも3点で「平和と友好に向けた共通の土台」があることに着目、それに基づく外交努力を図ることを提起しています。



岸田文雄首相(右)に申し入れる(左へ)志位和夫委員長、小池晃書記局長、田村智子政策委員長、穀田恵二国対委員長=3月30日、国会内

共通の土台生かして

①「互いに脅威と ならない」

福田康夫首相と胡錦濤主席の日中首脳会談(2008年5月7日)で出された共同声明で「双方は、互いに協力のパートナーであり、互いに脅威とならないことを確認」しました。

②「対話と協議」で 尖閣問題など解決

「日中関係の改善に向けた話し合い」(14年11月7日)で、尖閣諸島など東シナ海での緊張状態について「対話と協議を通じて、情勢の悪化を防ぐ」ことで意見が一致。

③東アジアの平和の 枠組みに賛意

東アジアを戦争の心配のない平和な地域にしようという「ASEANインド太平洋構想」(AOIP=19年に提唱)に日中両国政府も賛意を示している。

首相も「重要な指摘だ」

「提言」は、両国政府が受け入れ可能で、実行すれば両国関係の改善にとって実効のあるものです。志位氏との会談で岸田首相は「重要な指摘。建設的で安定的な日中関係をつくるための外交に取り組んでいく」と応じました。

大きな反響 「関係打開のきっかけにも」

「提言」は大きな反響を呼んでいます。「緊張・対立がある日中関係の打開に向けた極めて重要なきっかけをつくるのではないか」(ジャーナリスト・倉重篤郎さん)、「日中の共通の土台に着目した提言は立派」(元外務省アジア大洋州局長・榎田邦彦さん)

なぜ与党や一部メディアが攻撃？

「国民が主人公」を貫く党 支配勢力が前進恐れ攻撃

日本共産党は党をつくって101年、一貫して「国民が主人公」の日本の社会をめざして活動しています。それだけに支配勢力は共産党の前進を恐れ、事実にもとづかないバッシングをするのです。

知って
ください
共産党

支配勢力は戦前、「アカ」とレッテルを張り、野蛮な弾圧や拷問で活動を封じ込めました。戦後も政界から締め出し、国民との分断を図ろうとし、2021年総選挙では共産党が加わる政権ができることを恐れ「暴力革命の党」などのデマ宣伝を展開。自衛隊や日米安保条約など党の安全保障政策を歪めて攻撃し、国民の期待をそぐキャンペーンを大々的に展開しました。

反共は「戦争前夜」の声

日本はいま、戦争か平和かの岐路です。共産党は岸田大軍拡に正面から反対しています。多くのメディアは共産党批判をしても、大軍拡の危険をまともに報じません。

「反共は戦争前夜の声」(蜷川虎三元京都府知事)です。日本を再び「戦争前夜」にしないため、党攻撃をはね返して、国民と手を結んで大軍拡を止める決意です。